

シナジーを創出し、 新たなビジネスを 切り拓く

三菱HCキャピタル

三菱HCキャピタル
代表取締役 社長執行役員
柳井隆博氏

1982年、三菱銀行入行。経済調査・企画等に携わり、2016年、三菱東京UFJ銀行専務執行役員に。2017年、三菱UFJリースの社長に就任。2021年4月より現職。

2021年4月1日、三菱UFJリースと日立キャピタルが経営統合して誕生した三菱HCキャピタル。今後、同社は、持続可能な未来社会の実現に向けて、統合による相乗効果をどのように発揮していくのか。新会社としての展望などを代表取締役 社長執行役員 柳井隆博氏が語った。

統合による新たな価値の 創出で、更なる成長、発展へ

三菱HCキャピタルの前身、銀行・商社系の三菱UFJリースと、メーカー系の日立キャピタルは、2016年に資本業務提携を締結、ジャパン・インフラストラクチャー・イニシアティブの共同設立による海外インフラ投資事業の強化に取り組むなど協業を推進してきた。そして、約5年の月日を経て、2021年4月に合併を通じた経営統合を行った。新会社の代表取締役 社長執行役員に就任した柳井隆博氏は、「これまで両社は、互いのバックグラウンドを生かしつつ、世界各地で様々な領域のビジネスを展開し、その強みを培ってきました。しかし、もともと両社が目指していた社会における企業としての在り方は、表現や切り口は違

えども、極めて近いものでした。世の中が大きく変化している今、我々は、社会的課題の解決を通じた新たな価値の創出という想いのもと、一つの会社として事業を展開していくことを決意。統合により、ビジネス領域のフルラインアップ化や、ポートフォリオの分散を実現した『ビジネス領域の相互補完』、経営資源・ノウハウを結集した『経営基盤の強化』、さらに、これらをベースとして、世界各地のお客様や地域社会の社会的課題を解決する『新たな価値創造』を提供し、より力強く成長していきます」と話す。

注力5領域で、 イニシアティブを発揮

合併により、業界屈指のグローバルプレイヤーとなった三菱HCキャピタル。『社会資本／ライフ』『環境・エネル

ギー』『モビリティ』『販売金融』『グローバルアセット』の5つを事業展開の注力領域とし、それぞれにおいてイニシアティブを発揮、各領域をまたいだシナジーの創出にも取り組み、バリューチェーン全体の社会価値向上に貢献するという。

また、両社ともに強みを発揮してきた再生可能エネルギー関連事業の今後の展開について、柳井氏はこう語る。「現在、この分野における当社の事業資産残高は3200億円超。今後の太陽光や風力を中心とした事業は、日本国内はもちろんのこと、グローバルにおいてもその拡大を図り、バーチャルパワープラントなどの新たな事業開発も推進していきます。また、欧州や米州の再生可能エネルギー関連事業への投資も行い、将来的には、グローバルから得たノウハウを日本に還元し、事業展開を図ると

社会資本／ライフ

産業基盤、生活関連の社会資本が対象

環境・エネルギー

再生可能エネルギーを主体に、創エネ、蓄エネ、省エネ全般が対象

モビリティ

オートリースや先進的なモビリティサービスが対象

より大きな力を目指す **注力領域**

販売金融

小口分散化されたアセットが対象

グローバルアセット

世界各地で高い流動性と価値を見出せる資産が対象

「このようなことも考えていきます。豊かで持続可能な未来社会において、脱炭素や成長のための電源確保は、非常に重要な課題です。この分野には、今後も積極的に向き合い、シナジーを発揮しつつ、社会に貢献していきたい。そして、業界をリードしていく存在になりたいと考えています」。

有望領域の企業買収などで、 グローバルな競争力を強化

三菱HCキャピタルとして、統合シナジー実現に向けた取り組みの第一弾が米国の大手海上コンテナリース企業CAI社^{※1}の買収。この事業領域は、安定的な需要と高い収益性を兼ね備えた持続的な成長市場だと、柳井氏も期待を寄せる。「統合効果の一つとして、強固で安定的な収益基盤を生かした投資活動を推進する投資シナジーの実現を掲げており、本件はその第一弾です。海上コンテナ輸送は、もともと人々の豊かな暮らしや各産業の成長と

密接に関連する大事なインフラです。特にこのコロナ禍で、その重要性を痛感するとともに、有望な事業領域であることを再確認しました。当社は、2014年に、同分野の米国BIL社^{※2}を買収しており、今回のCAI社とあわせると、当社グループのコンテナ保有数は世界第2位グループに躍進する見込みです。今後は、海上コンテナリース事業のグローバルにおける競争力を高めるとともに、その成長機会を取り込むことで、当社の中長期的な成長を支えるドライバーの一つとして強化していきます」。

すべての社員が その力を発揮できる会社に

三菱HCキャピタルの目指す姿、それは「すべての社員が力を発揮できる会社」であると、柳井氏は語る。「私自

シナジー効果で ビジネスを成長・発展



国際物流に必要な不可欠な海上コンテナリース事業は、三菱HCキャピタルの今後の成長ドライバーの一つ。



脱炭素に貢献する再生可能エネルギー関連事業においては、企業・地域が抱える問題を解決する新事業の開発を推進。

身、銀行時代に2度の大きな合併を経験していることから強く思うのですが、「自社に対する自信と誇りをすべての社員に持ってもらうこと」「合併して良かったと思える会社にする」「すべての社員がやる気になって、力を発揮できる会社にする」が重要です。経営理念やビジョンの策定はもちろんですが、何よりも大切なことは、それを全社員が理解し、腹落ちした状態で前に進んでいくことです。国内外を含めて、約9000人におよぶ社員が同じベクトルで進んでいく会社づくりを目指します。

三菱HCキャピタル

三菱HCキャピタル株式会社
〒100-6525
東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング
<https://www.mitsubishi-hc-capital.com/>

※1 CAI International, Inc.
※2 Beacon Intermodal Leasing, LLC